

いっしょらぼ  
～こころのラボレーション～



スクールサポーター  
(臨床心理士)  
小林 真理

その子に合わせた

つもりが

社会性や対人関係は問題がなく、知的に低いわけではなく、聞く・話す・読む・書く・計算する・推察することの一部、あるいはいくつかのことにおいて、著しく困難がある場合を「学習障害」といいます。著しく困難、というのは具体的には小学校低学年では1・2年の遅れ、高学年ではそれ以上の遅れのことをいいます。

今回は、そんなBくんに合わせた工夫についてご紹介します。

Bくんは低学年の頃から読む・書くに著しい困難を抱えていて、黒板の連絡を連絡帳に書き写すことも、毎日苦労していました。文字や書いてあることはわかるけど、どこに何を書いているかわからない、そのため時間がたつても書けないままという状態でした。

日	月	曜日	内容
あさの	よてい	がつきゅう	
1			こくご
2			おんがく
3			たいいく
4			がっかつ
5			こくご
6			
も	ぎょうちゅう	いすから*	がっこうから
ち			
の			
し	おんどく		
も	ぷりんと		
の			
ひ			
ら			

← 低学年向け

日	月	曜日	内容
あ			学 活
す			理 科
の			学 活
ひ			児童会決め
ら			引き出し
の			生活記録(5年生の目あて)

↓ 高学年向け

た。担任のC先生は「どうやったらBくんが書けるようになるだろう」と思索し、大型テレビとパソコンをつないで、連絡帳そのものをスキヤナで取り込んでテレビ画面に映し出し、「どこに何を書くのか」をはっきりとわかるように提示する工夫を始めました。

この工夫を始めたところ、時間はかかるものの、Bくんは自分の力で画面を見ながら連絡帳を書くことができるようになった。冒頭に「社会性や対人関係は問題がないのに」と書きましたが、「毎日の生活の中で」できないうことが重なっていき、大人でも子どもでも当然ながら同じように大型テレビとパソコンをつないでいます。「最初ははじめて連絡帳を書く1年生向けだったのですが、私も黒板に書くよりこの方が楽になってしまっ

て、高学年バージョンもつくってしまったということでした。C先生の工夫は、最初はBくんに合わせたものでしたが、結果として全員にとって有効なもので、先生自身にとっても、子どもにとっても日々の記録が簡単にできるツールになっているのです。こうしたICT(インフォメーションコミュニケーション)を使って、誰にとってもわかりやすく、全員参加を可能にしたい、という気持ちと工夫が大切なですね。

軽井沢町の  
公用封筒に有料広告を  
掲載しませんか？

広告媒体の概要

●封筒の規格  
窓あき封筒  
(12センチメートル×  
23・5センチメートル)

●広告数  
2枠

●広告掲載の範囲  
縦5センチメートル×  
横10センチメートル

●作成予定枚数  
10,000枚

●広告掲載料  
15,000円

●募集期間  
5月1日(月)から  
6月23日(金)まで

※募集要項など詳しくは、町ホームページをご覧ください。か、問い合わせください。

【問い合わせ】

子ども教育課 児童係  
☎45・8672



児童係用封筒  
イメージ